

学校給食の提供方法について（報告）

学校給食の提供方法については、呉市小中学校給食検討委員会（以下「検討委員会」といいます。）の意見・提案を検討したところ、検討委員会から提案のあった既存の小学校の給食施設の有効活用により、旧呉市内の中学校に全員喫食の食缶制給食※の提供を早期に開始する（既存給食施設活用案〔早期実現案〕）こととしました。

また、将来的には、一定の検証・検討期間を経て、給食施設の新築等により呉市の学校給食が抱える諸課題に対応した給食提供体制の構築を目指します。

※ 食缶制給食 おかずや汁などを保温性の高い食缶に入れて教室に持って行き、児童・生徒が取り分けて食べる給食

1 既存給食施設活用案（早期実現案）

(1) 提供方法

旧呉市内の既存の小学校の給食施設に最小限の施設改修等を行うことで調理能力を上げ、親子方式※を基本として近くの中学校に食缶製の温かい給食を届けます。

なお、給食を提供する小学校と配食を受ける中学校の組合せについては、基本的に中学校区単位とします。

※ 親子方式 学校（親校）内の給食施設で調理した給食を、配送車を利用するなどして他の学校（子校）に配食する給食提供方法

(2) 期待される効果

ア 中学校でも全員喫食の温かい給食をできるだけ早く提供してほしいという市民ニーズに応えることができます。

イ 呉市内に選択制のランチボックス方式デリバリー給食と全員喫食の食缶制給食が混在することの不公平感が解消されます。

ウ 既存の給食施設を活用し、全員喫食の食缶制給食を実現することで、将来の給食施設の整備に際し、今後の児童生徒数を考慮した適正規模の給食施設を建設することが可能となります。

(3) 概算事業費

親校の調理能力を上げるための調理器具・備品の更新費及び必要最小限の施設改修費、子校に給食を届けるための車両や食缶・食器などの購入費など、3年間で約5億5千万円の整備費を見込んでいます。

(4) スケジュール

令和4年度からの3年間で小学校の給食施設を改修します。また、令和5年度から令和7年度までの間で、順次、旧呉市内の中学校で全員喫食の食缶制給食の提供を開始します。

2 将来的な給食施設の整備

(1) 給食施設の整備

既存給食施設活用案(早期実現案)では、呉市の学校給食が抱える諸課題(給食施設の老朽化への対応、学校給食衛生管理基準への対応及び少子化に伴う給食施設の適正規模への対応)を解決することができないため、将来的には、検討委員会の提案を参考にして、親子方式の給食施設や共同調理場を新たに建設するなど、経費的に優位性があり、また、より安全・安心で子供たちに喜ばれる給食が提供でき、さらには、学校の働き方改革にも寄与する給食施設の整備を目指します。

なお、施設の整備に当たっては、PPP/PFIの導入の検討のほか、より費用対効果の高い給食提供体制について柔軟に検討します。

(2) スケジュール案

望ましい給食施設の整備について、令和7年度から5年程度の検証・検討を行い、令和17年度を目途に新しい給食提供体制への移行開始を目指します。